校長室だより～燦燦～ №３９５

閖上

2021.7.21

以前から「閖上」に行こうか行くまいか、自分の中で葛藤があった。閖上（ゆりあげ）とは、宮城県名取市の閖上地区のことである。東日本大震災において甚大な被害があった場所の一つである。名取市は、位置的には仙台市のすぐ隣にあたる。

現在の閖上地区は、新しい建物が目立つ地域となっている。その中に、「名取市震災復興伝承館」というものがある。被災３県には、このような施設が複数あるだろう。その多くが、“伝承”を目的としている点は共通しているのではなかろうか。

中に入ると、震災前の閖上地区のジオラマというのだろうか、お手製の縮尺模型が展示されていた。以前は、これほど住宅が建ち並んでいたのかと思い知らされた。よく見ると、一軒一軒の模型に「〇〇さん」と住んでいた方のお名前が表示してある。この製作に携わった方々は、どんな思いで一つ一つ丁寧に作っていったのだろうか。

大型テレビ画面があり、繰り返し、震災時の様子が流されていた。名取市長のお話、メッセージもあった。なぜだか、それが心に響くものだった。もう一度聞きたくて、繰り返し聞いた。リーダーの話では、心に響くものとそうでないものとがある。その違いはどこからくるのか。自分が置かれている立場から、そのことを考えずにはいられなかった。

展示物を見ていると、「閖上小・中学校へ避難」というタイトルが目に入った。そこには、このような内容が書かれてあった。

閖上小学校・中学校ともに、津波が押し寄せ壊滅的な被害を受けながら、当日は地域住民の避難場所となりました。食料、水、灯り、暖房などほぼ何もないなか、展示の画用紙や教室のカーテンなどを使って暖を取ったり、夜中に津波被害にあいながらたどりついた住民に、アルコールランプで湯を沸かして飲み物を提供するなど、教職員が中心となって工夫を凝らして運営を行いました。翌日、自衛隊などの救助があり翌夜までには全員が安全な浸水していない場所や別の避難所（学校等）へ移動しました。

地震発生時は、１、２年生は下校直後、３～６年生は在校していましたが、学校が指定避難所になっていたため、学校では、在校児童はそのまま帰宅させませんでした。さらに下校途中の１、２年生も教職員が呼びもどして学校に避難させました。地震発生から時間が過ぎても津波が来ないため、学校に迎えにきた父兄からは、児童の引き渡しを求める激しい声が上がりましたが、校長が「大津波警報のため今は渡せない」と拒否し、児童や父兄を学校に留めました。結果閖上小では、全員無事でした。（当日欠席の児童１名は犠牲に）

この内容をゆっくりと二度ほど読んだ。自分が、閖上小学校の校長の立場だったら、そう考えずにはいられなかった。保護者が自分の子どもを家に連れて帰るというものを、果たして拒否できるだろうか。現実には難しいと思う。だが、実際に保護者の激しい声に耐えながら、断固拒否をし、大勢の命を救ったリーダーがいたのである。私たちは、このようなエピソードも“伝承”していく義務を背負っている。